

私小説落語、真っ盛り！

SWAのメンバーで創作落語の名人・林家彦いちと、  
NHK新人落語大賞受賞の笑福亭羽光が登場！

## 第159回 武蔵野《七夕》寄席

2025年7月13日(日) 午後2時開演(午後1時30分開場)

武蔵野公会堂 4月5日(土) チケット発売開始

料金(全席指定) 一般：2300円 アルテ友の会：2000円  
25歳以下：1000円 見切れ席：1000円  
\*見切れ席：舞台の一部が見切れます。



[出演] 林家彦いち、笑福亭羽光

春風亭昇太、柳家喬太郎、三遊亭白鳥と共に、SWA(創作話芸アソシエーション)のメンバーとして落語ブームの一端を担う、創作落語の名人・林家彦いちが武蔵野寄席に初登場！落語界きってのアウトドア派で、島育ちや旅の体験を題材にした私小説落語も大人気！そして、NHK新人落語大賞受賞！大胆でコミカルな私小説落語で、創作落語の可能性を広げ続ける上方の笑福亭羽光も高座を盛り上げる！



カナダ先住民族の言語ウォラストク語で歌う

## ジェレミー・ダッチャー 蘇るカナダ先住民の歌声

2025年8月4日(月) 午後7時開演(午後6時30分開場)

武蔵野市民文化会館 小ホール 4月5日(土) チケット発売開始

料金(全席自由) 一般：3500円 アルテ友の会：3000円  
25歳以下：1000円

今年の大阪・関西万博に出演！カナダ館の目玉アーティストとして来日するジェレミーは、史上初、カナダで最も芸術性の高いアルバムに贈られるポラリス音楽賞を2度受賞！ヨーヨー・マヤレスリー・ファイトなどとコラボレーション。消滅の危機にある母語ウォラストク語で歌い、クラシックやジャズ、現代音楽の要素を取り入れることで、カナダ先住民族の声を現代によみがえらせる！

武蔵野市民文化会館 〒180-0006 武蔵野市中町3-9-11

■チケットのお申し込み

TEL 0422-54-2011

- ・インターネットからも申し込みできます。
- ・電話、窓口予約の場合、アルテ友の会に同時入会可能です(年会費1000円)。  
インターネット予約では同時入会できません。

■チケット取り扱い窓口

武蔵野市民文化会館／武蔵野公会堂／吉祥寺シアター／武蔵野プレイス(2025年4月3日から)



ホームページ



X(旧Twitter)



Facebook

\*出演者、内容はやむを得ず変更となることがあります。最新の公演情報については事業団のホームページをご覧ください。

\*武蔵野市民文化会館、吉祥寺美術館、吉祥寺シアターなどの文化施設は(公財)武蔵野文化生涯学習事業団が管理、運営しています。

## 宮本典刀 一街の記憶—

2025年4月12日(土)～6月1日(日)

休館日：4月30日(水)、5月28日(水)

主催＝武蔵野市立吉祥寺美術館(公財) 武蔵野文化生涯学習事業団

どこかにある、どこでもない、街の風景—。

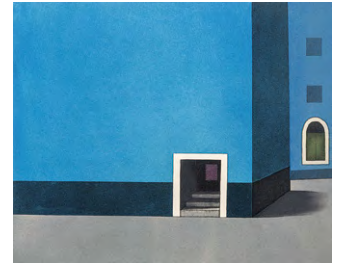
銅版画家・宮本典刀(1940-)は、いわく「心のなかに沈んでいる記憶」を丁寧に拾いあげ、それらを再構築して、街の風景を描いています。

宮本は、旅先で、あるいは日常生活の延長で、大通りから人目につかない裏路地に至るまで、長い時間をかけて、街を歩き回ります。その間、スケッチブックを広げて写生をしたり、メモを取ったりすることはありません。彼はひたすら歩きつづけ、光や色、肌に触れる空気、におい、音など、街を形作っている要素を、そのままに、心身に受け止めてゆきます。そして、宮本のうちに集積した街のさまざまな「記憶」は、切妻屋根の家々、煙突や橋といった、人間の暮らしを暗示する構造物の形をとって、描き出されます。

宮本の画面は、微細かつ均質な粒子によって表されたアクアチント\*の色面を、彼の極めて精密な技術をもって構成することで成立しています。いわゆる写実からは遠いところにあるフラットな表現は、私たちが個の特定から解放されます。どこでもない風景のなかで、私たちは自らの心奥に眠る「記憶」との邂逅を果たし、私たちが私たちがたらしめているものと、向き合うことになるのです。

また、音楽との関係性も特筆すべき点です。宮本は日頃から多彩な音楽に触れ、とりわけスペインやポルトガルの民族音楽、またF.モンポウやR.シュトラウスなどの楽曲を愛聴し、ときに音楽から着想した画題も生まれます。とはいえ彼は、音楽との結びつきをことさらに意識しているわけではありません。「色をみると音が聴こえる」「音がみえる」とは宮本の言葉ですが、例えば絵画作品などを鑑賞する際にも、そこにおのずと音を感じるといいます。

本展は、宮本典刀の作品を個展として紹介する、美術館では初めての機会です。宮本がアクアチントの色面によって街を描き始めた1999年以降の作品を中心に、最初期作と最新作を含む約70点を展覧します。



《青の街角》2017年



《広場》2005年



《夕景の街》2023年

\*銅版画技法のひとつ。防蝕(ぼうしよく)ニス(ぼうしよく)を施した銅板に松脂(まつやに)やアスファルトなどの粉末を撒いて加熱定着したのち、腐蝕させることによって、面的な表現ができる。



## 武蔵野市立吉祥寺美術館

**開館時間** 午前10時～午後7時30分

**休館日** 毎月最終水曜日(祝日の場合は翌日)  
年末年始、展示替えおよび特別整理期間

**入館料** 一般300円/中高生100円  
(小学生以下・65歳以上・障害者は無料)

**交通案内** JR・京王井の頭線「吉祥寺駅」下車 北口より徒歩3分



ホームページ



X(旧 Twitter)



Facebook

〒180-0004 武蔵野市吉祥寺本町1-8-16  
コピス吉祥寺A館7階  
TEL：0422-22-0385